

第6回丹波市自治協議会のあり方懇話会概要

日時：平成31年4月23日
場所：丹波ひかみ農協会議室
会議の詳細は
丹波市ホームページ



第6回丹波市自治協議会のあり方懇話会を開催しました。これまでは、抽象的な部分での協議でありましたが、第6回からは具体的な論点に入り、「自治会と自治協議会のあり方」や「地域づくり計画のあり方」について、活発な議論が展開されました。



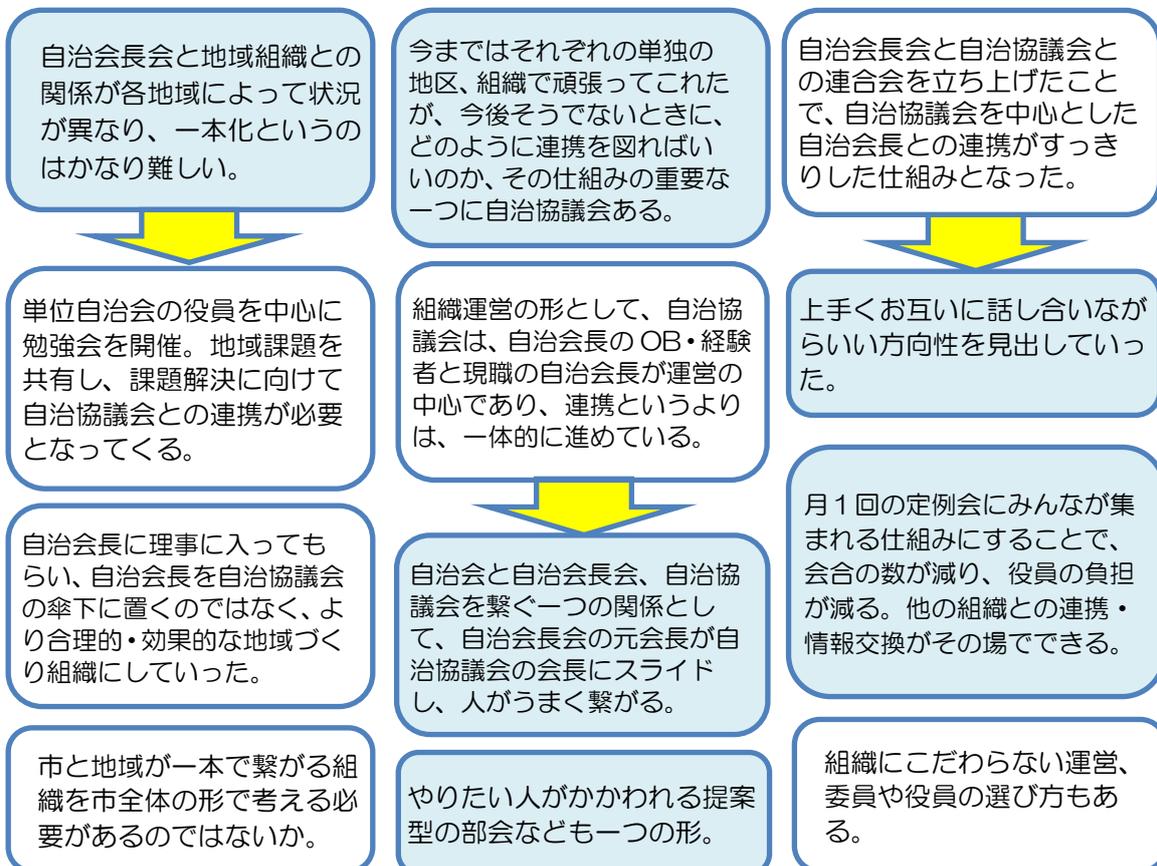
◎自治会と自治協議会のあり方

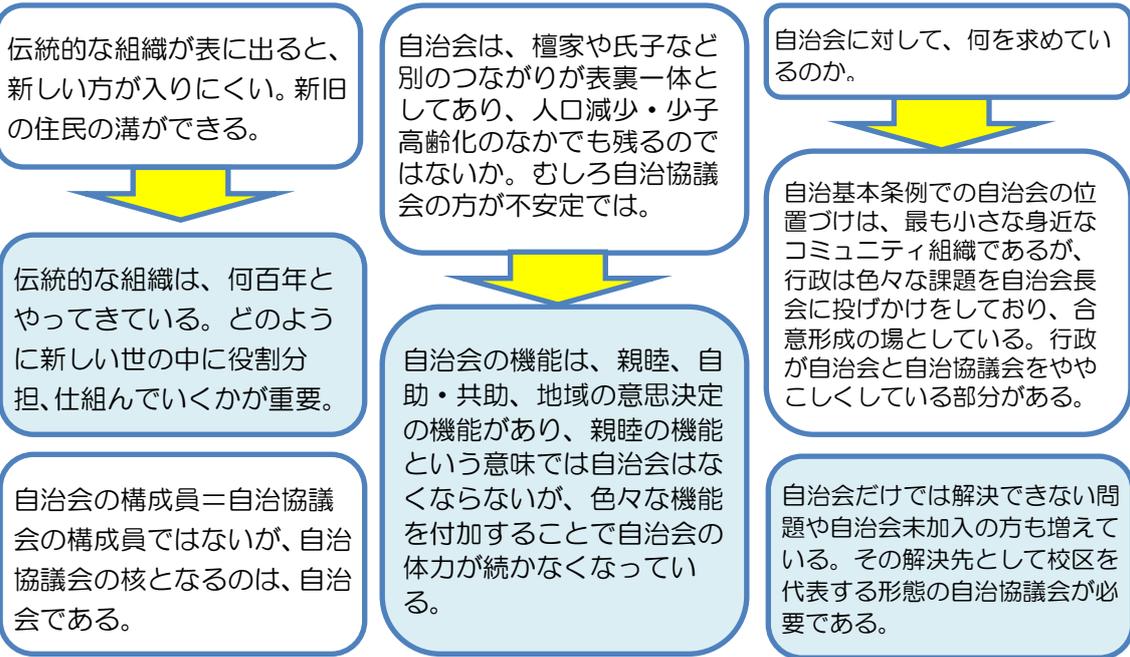
- ・自治会（集落）と自治協議会の連携
- ・自治会長会と自治協議会について

《視点》

- 自治会がする活動と自治協議会がする活動には明確な違いがあるか。その活動の線引きが明確になれば、自治協議会の活動を実行するのにどのような組織が相応しいかわかる。
- 「情報共有・意思疎通」…地域住民への情報は、どのような経路をたどって届いているのか。自治会から流れているのか、自治協議会から流れているのか。また、行政は、重要な情報を市民に流すのに、自治会、自治協議会のどちらに流すのがあるべき姿なのか。

【委員からの主な意見】





◎地域づくり計画のあり方

- ・ 行事遂行型から課題解決型へ（事業の棚卸しを行い必要なものは継続）
- ・ 人口減少、少子高齢化など地域課題に対応できる地域計画の作成
- ・ 地域経営の戦略的展開（施策連携）

《視点》

■ 地域課題は色々あるが、その課題を解決していくための解決策の指針や方向性、具体策・活動内容、あるいはスケジュールなどはどこで決まるのか。自治会か自治協議会か。また、その決まる場は、総会か役員会か。それは、住民の声がきちんと反映されているのか。

地域の取り組みというのが、市の色々な計画の中にきちんと反映されるような形で決まっているのか。市の計画と線で繋がっているのか、いないのか。

【委員からの主な意見】

